

環境問題を解決するにあたっての教育の必要性を学んで

キャリアトライアルとして環境省にお邪魔し、その一環として今回は中部地方 ESD 活動支援センターが主催された「地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①～」にオンラインで参加させていただき、環境問題、知る事、学ぶこと、つまり教育の必要性についてのお話を伺い、たくさんの学びを得ることができました。

2050 年の二酸化炭素排出量実質 0 に向け、2030 年が節目の年になってくことは TV ニュースでもよく取り上げられ、政治家も言っていますが、減少傾向にはあるものの、全体的に課題が多く、まだまだ努力を続けていかなければ、目標達成にはいたれないというのは改めて感じさせられました。

また、今回初めて「気候変動教育」という言葉を耳にしたのですが、教育の必要性を今まであまり考えたことがなかったので、とても興味深く感じました。

私はむしろ教育よりも実践が大切だと考えていたのですが、お話を伺う中で教育の必要性や影響力、その計り知れない可能性に気づかされました。

環境省に最初に伺いお話を聞いた時から、個人個人、地域地域にあった対策が必要になってくることを痛感していました。

海外や国内の環境が違う場所に行くと、それを改めて実感しました。地域ごとに必要とされる対策は異なり、築いてきた自然との共存の仕方、文化も異なります。

多様性が尊重される現代で、いかに協力して環境と向き合い、地球温暖化を食い止め、地球の、そして人の活動を持続させていくかというのは本当に難しく、だからこそ全員が取り組まなければいけない問題なのだと思います。

お話の中に「市民参加」ということがありましたが、自身をふりかえってみると、せっかく環境について学ぶイベントや講義に参加しても、その場限りの学びにしてしまっ、その後自分で見識を広めるといったような努力を全然してこなかった、と感じました。

私を含め、いまだに気候変動や地球温暖化をそこまで深刻な問題だとは捉え切れていない人のほうが多いのではないのでしょうか。

そのような意識をいかに変革させていくかは今後も大きな課題になっていくだろうと感じました。

今後更に地球温暖化や気候変動への対策が叫ばれていくだろうと感じますが、様々な観点から問題を分析する能力を身に着け、自ら学びを深めようとする姿勢を保ち続けたいと思いました。

南山高校女子部一年 長谷川 由奈